

3. 包括的な相談・支援体制

(1) ケアラー支援の活動拠点の設置

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
ケアラー支援に係る情報の一元化とケアラーが抱える課題解決の迅速化を図るため、ケアラー支援の活動拠点の設置をします。	社会福祉協議会のケアラー支援室を中心に、ケアラー支援に関する企画立案や広報・啓発活動を行っている。また、スマイルサポーターによるケアラー相談をはじめとしたケアラー支援活動を行っている。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・活動拠点が設置され、支援活動が増えていくと良いと思います。 ・頑張っていらっしゃる。良い。 ・相談窓口・支援体制は整い、実績も上がっていますし、あとは要介護状態に家族がなればアッという間にケアラーも増えていくので、継続して隠れケアラーを導き出せるが次のステップだと思います。		ケアラーズカフェ「サンタの笑顔」に栗山町社会福祉協議会のケアラー支援室を設置しており、同室を中心としたケアラー支援の展開を今後とも進めて参ります。 なお、第2期栗山町ケアラー支援推進計画において、ケアラー支援室の機能強化を掲げていることから、より一層、関連施策が推進できる体制を整えます。	

(2) ケアラー支援専門員の配置と相談窓口の設置

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) - (終了)
① まちなかケアラーズカフェ「サンタの笑顔」にケアラー支援専門員を配置し、ケアラーが気軽に相談できる窓口を設置します。	ケアラーズカフェ「サンタの笑顔」にケアラー支援専門員を配置し、相談を受けている。令和6年3月31日時点での相談件数は延べ25件である。	○	→
② 中部・南部地区など各地域への出張相談を実施します。	現在は訪問活動を主として行っている。令和6年3月31日現在で、105世帯に見守り訪問を実施している。	○	→
③ ケアラーのための交流会や各種講座等を開催します。	老人クラブや介護福祉学校と連携し、「サンタの笑顔」を中心に定期的に交流会を実施した。内容については、ニーズが高かったタブレットやスマートフォンを活用した交流が多かった。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① ・ ふれあいサロンにケアラー相談員を常駐させることは賛同するが、空き家や個人宅の活用も検討して、子ども食堂のケアラー版を模索してはどうか。 ・ 窓口の存在、専門員、時間等さらなる工夫が必要だと思います。 ・ 良い。(施策内容②～③同意見) ・ ふれあいサロン等に、行きたくても行くことの出来ないケアラーもいる。お出かけ安心サービス事業等が伝わっていないと思われる。 ・ 相談窓口・支援体制は整い、実績も上がっていますし、あとは要介護状態に家族がなれば、アッという間にケアラーも増えていくので、継続して隠れケアラーを導き出せるが次のステップだと思います。(再掲 施策内容②～③同意見)		スマイルサポーターによるケアラー支援の相談には、来所・電話相談の方法があります。より利用しやすい相談窓口の検討及び周知活動を今後とも進めて参ります。 出張相談は、その利用頻度が少ないことから、全町を対象としたケアラーサポーターの訪問活動に切替え、活動を継続しています。 子ども食堂に関しては、貴見を参考にさせていただきます。	
施策内容② ・ 活動が着実に広がって、利用者の反応も良いと思います。			
施策内容③ ・ 楽しみながら、新しいものに取り組めたのは良かったと思われる。 ・ ケアラーズカフェでの交流会は毎回好評のようです。今後ともつづけてほしいです。			

(3) ケアラーアセスメントの見直し

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
ケアラーが行う介護の状況や、介護をすることによってケアラーの心身に与える影響などを明らかにするため、マネジメント機能の導入やアセスメントシートの見直し等を行います。	いのちのバトン配布世帯を中心に、ケアラーアセスメントを実施し、これにマネジメント機能を導入した。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・いのちのバトンに頼りすぎと感じます。救急搬送時の適切措置とケアラーとはつながらないのでは。 ・いのちのバトンが、一般の人にはまだ知られていないような気がするので、今後工夫が必要ではないかと思います。 ・結果の精査が大事ですね。良い。 ・民生委員児童委員と情報共有ができる体制が良いと思う。 ・相談窓口・支援体制は整い、実績も上がっていますし、あとは要介護状態に家族がなれば、アッという間にケアラーも増えていくので、継続して隠れケアラーを導き出せるが次のステップだと思います。(再掲) ・ケアラー度を求めてサービスにつなぐケアラーアセスメントは本町がトップランナーである。そこで、居宅介護支援事業所のケアマネにアセスメントの実施を行えるよう支援してはどうか。		ケアラーアセスメントはいのちのバトン世帯を中心に約30世帯に対して行っています。 アセスメントにより、ケアラー支援がよりわかりやすく、その効果が把握できること。支援記録としても残ること。関係機関との情報の共有ツールにもなるのに有用なことがわかりました。 今後は、アセスメントからのケアラーへのマネジメント機能の強化とアセスメントを全町的な動きとしていく予定であり、関係機関とも協議の上、進めて参ります。	

(4) 重層的支援体制の整備

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
ケアラーのうち被介護者が複数名いる方、病気または、障がいをもつ子どもを育てている方、生活困窮の方など、経済事情を含めた複雑化した相談に対応するため、地域住民や各分野の様々な専門職が連携し包括的に支援を行う体制を整備します。	８０５０問題などの多世代問題や経済的な事情等を絡んだ複合的な問題を抱える世帯の支援方法や情報の共有化を目的として、重層的支援会議を４回実施した。内訳は多機関協働型のケース会議を２回、役場内各担当者（高齢者・障がい・子ども・住民保健課）の担当者会議を２回開催した。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・難しい問題、課題ですが町側で連携し対応しているようなので、今後も支援体制を整えて取り組んでほしいです。 ・是非継続願いたい。良い。 ・相談窓口・支援体制は整い、実績も上がっていますし、あとは要介護状態に家族がなれば、アッという間にケアラーも増えていくので、継続して隠れケアラーを導き出せるが次のステップだと思います。（再掲）		栗山町では、包括的相談支援事業の中で「重層的支援会議」を実施してします。 同会議では、庁内関係者での検討ケース、多機関協働で行う支援ケースに分けて実施し、情報の共有化や課題解決に向けた取り組みを行っています。 取り組みの中で、世帯内での有事に備え、長期的な視点を持ちながら関わっていくこと、情報共有と伴走支援、家族支援の重要性を認識するところでもあり、その点を踏まえながら、今後とも継続する予定です。	

(5) ヤングケアラーの相談支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
ヤングケアラーを早期に発見し、必要な支援を行うため、教育分野と連携し、相談窓口の設置と支援体制を整備します。	ヤングケアラーの相談窓口は、栗山町子育て世代包括支援センターが担い、教育委員会、学校や関係機関と連絡調整を行っている。また、今後の支援の基礎資料として、ヤングケアラー実態アンケートを令和5年11月から12月にかけて実施し、町内に33名のヤングケアラーと思われる子どもがいることがわかった。また、実施後は集計結果をもとに各校を訪問し、情報・意見交換を行った。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・相談する相手がいない、誰に相談すればなどがありますので窓口を広げ理解を得られるよう体制を整える必要がある。 ・学校以外の時間帯での見守り、働きかけ。対象者の意向もあるが、地域の他、民生委員の方の具体的な見守りも必要なのでは？ ・相談窓口の設置、状況把握により支援につながる流れができていると思います。 ・掘り起し大事ですよね。良い結果が出ましたね。 ・町内に33名のヤングケアラーと思われる子どもたちに、これからどのような支援をしていくのか早急に対策が必要。 ・相談窓口・支援体制は整い、実績も上がっていますし、あとは要介護状態に家族がなれば、アツという間にケアラーも増えていくので、継続して隠れケアラーを導き出せるが次のステップだと思います。(再掲) ・ヤングケアラー問題の解決には、地域の力が求められることから、PTA、子ども会などの活動充実を進める必要を感じます。		ヤングケアラーに関する実態把握の調査及び情報交換会や出前講座など町、町教委、社協等が連携していく中で、支援体制の整備を進めています。 学校との情報交換は、ヤングケアラーの子どもたちの支援を行う上でも有用であり、今後は、ヤングケアラーアセスメントの導入を検討し、早期発見と早期介入ができるシステム作りを推進して参ります。	